

# JAMA NEWS

NO. 58

## The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター (株)国際文献社内 日本管理会計学会事務局

### 2025年度年次全国大会記

近畿大学 北田 智久

日本管理会計学会2025年度年次全国大会（委員長：甲南大学杉山善浩氏）が、2025年8月29日（金）から31日（日）までの3日間にわたって、甲南大学岡本キャンパスにて対面形式で開催された。参加者は242名であり、大会期間中は活発な交流が図られた。

#### ◎ 大会1日目

初日は、常務理事会、理事会および各種委員会が開催された。

#### ◎ 大会2日目

2日目は午前6会場で24件の自由論題報告が行われた。午後は、会員総会、特別講演、スタディ・グループ中間報告、統一論題報告、会員懇親会が開催された。

昼食後に行われた会員総会では、大会実行委員長挨拶、会長挨拶のあと、議長選出と昨年度の会員総会の議事録の確認が行われた。審議事項として、昨年度の事業報告、昨年度の収支決算書（案）、監査報告、今年度の事業計画（案）、今年度の収支予算書（案）、研究倫理綱領（案）、除名等・名誉会員・三選禁止規定の改正（案）、学会賞の新設について、審議・承認された。報告事項として2026年度の年次全国大会は、成蹊大学にて開催されることが報告された。また、会員の異動、各種規定の改正、スタディ・グループ、学会誌『管理会計学』の発行状況と今後の方向性等が報告された。

最後に、学会賞審査報告ならびに表彰式が執り行われた。受賞者は以下のとおりである。

#### 【学会賞】

- ・特別賞：該当なし
- ・功績賞：尾畑裕氏（明治学院大学）、鈴木浩三氏（東京都水道局）、長屋信義氏（産業能率大学）
- ・文献賞：片岡洋人氏（明治大学）『レベニュー・マネジメントの理論と展開』中央経済社。
- ・論文賞：鈴木孝則氏（早稲田大学）「統制能力の自己申告と報酬契約へのコミットメント戦略」『管理会計学会』第33巻第1号。
- ・奨励賞：該当なし

特別講演では、杉山善浩氏（甲南大学）の司会のもと、江崎グリコ株式会社 代表取締役会長の江崎勝久氏が「江崎グリコの経営理念」というテーマで講演された。

江崎氏はまず、同社の原点となる「栄養菓子」というコンセプトや、グリコキャラメル誕生に至る創業当時のエピソードについて丁寧に語られた。そこでは、単なる菓子ではなく、人々の健康や成長を支える食品としての

使命感が創業の根底にあったことが強調された。続いて、グリコグループの組織体制や国内外に広がる事業の内容が紹介され、グローバル企業としての展開がわかりやすく説明された。また、グリコの象徴的存在である「ランナー」のマークの由来や看板設置の経緯やシンボルに込められた意味も紹介された。

さらに、講演の中では「創業の精神」が現在までいかに受け継がれてきたかが語られた。当初掲げられた社是や社訓は時代とともに表現が難解になり理解されにくくなったため、「創意工夫」といった抽象的な言葉から、「すこやかな毎日、ゆたかな人生」というより響きやすい表現へと改められた。その根本にある考え方は変わらず、時代の変化に応じて表現を磨き直すことで、創業者の理念が今日まで受け継がれていることが強調された。

特別講演後、スタディ・グループの中間報告（1）として「テンションのバランスをとるマネジメント・コントロールに関する研究」（研究代表者：南山大学 窪田祐一氏）、スタディ・グループの中間報告（2）として「管理会計の先駆者としての渋沢栄一の研究」（研究代表者：関西大学 水野一郎氏）の報告が行われた。

その後、統一論題報告が行われた。今年度の統一論題のテーマは、「定量的な分析技術が管理会計研究にもたらすもの-展望と示唆-」（座長：近畿大学 安酸建二氏）である。最初に座長の安酸氏から解題がなされた。より確かなエビデンスを得るために、定量的な「研究技術」の重要性を指摘し、会員相互に定量的な研究技術を理解することを狙いとして、各手法に対する素朴な疑問が提起された。

第1報告は、岩澤佳太氏（東京理科大学）から「質問票調査は終わったのか？：管理会計研究にもたらしたものと限界と可能性」というテーマで報告された。岩澤氏からは、質問票調査の国内外での利用の状況や質問票調査が抱える問題が指摘された。ABCに関する研究群を例に、質問票調査が新たにもたらした研究課題などを指摘して、質問票の強みを説明した。また、国内の管理会計研究の問題を海外のジャーナルの状況と比較し、構成概念と尺度に関する議論を整理した上で、質問票調査の目指すべき道が提示された。

第2報告は、澤田雄介氏（相山女学園大学）から「なぜ実験は流行らないのか？：管理会計研究における実験の現状と未来」というテーマで報告された。澤田氏の報告では、実験研究の国内外での利用度や、実験に関する基礎的な説明、実験を取り巻く状況について説明があっ

た。具体的には、実験室実験とオンライン実験の違いなどが説明された。その後、定性的な研究との関わりや実験研究の最新の動向およびその展望について説明された。

第3報告は、小笠原亨氏（甲南大学）から「アーカイバルデータは管理会計研究にとって有益か？」というテーマで報告された。小笠原氏は、アーカイバルデータを定義し、アーカイバル研究の利用状況について説明した。小笠原氏の報告では、アーカイバル研究の普及度合いに対して、アーカイバル研究の問題点に関する議論が不十分であることが指摘された。そこで、アーカイバル研究の有益性を見極める2つの評価軸として、理論の厳密性とデータの明瞭性が小笠原氏から提示された。

大会2日目の最後に会員懇親会がHirao Dining Hallにて開催され、豪華な料理や飲み物が振る舞われた。

### ◎ 大会3日目

3日目は、午前6会場に24件の自由論題報告が行われた。午後はスタディ・グループの最終報告として、「生産性を向上するサステナブル・プロフィット・マネジメント」（研究代表者：東洋大学 吉岡勉氏）および、産学共同研究グループの最終報告として「ワイズ・ガバナンス-業績管理会計等の新展開-」（研究代表者：津田塾大学 大西淳也氏）の報告が行われた。

その後、統一論題討論が行われた。討論では、座長の安酸建二氏（近畿大学）のコーディネートのもとで、3名の報告者と参加者との活発な質疑応答が行われた。さまざまな視点から定量的な管理会計研究について白熱した議論が行われ、盛況のうちに2025年度年次全国大会が終了した。

## 2026年度年次全国大会 開催ご挨拶

大会実行委員長 成蹊大学 伊藤 克容

日本管理会計学会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、2026年度年次全国大会を、8月23日（日）から8月25日（火）までの日程で、成蹊大学吉祥寺キャンパス（東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1）において開催することとなりました。ご案内の「日本管理会計学会2026年度年次全国大会スケジュール（予定）」に基づき、対面形式での開催に向けて準備を進めております。

会場へのアクセスは、JR中央線・総武線および京王井の頭線「吉祥寺駅」より徒歩約15分、または吉祥寺駅北口から関東バスにご乗車いただき「成蹊学園前」停留所下車すぐとなっております。会員の皆様に快適にお過ごしいただければ幸いに存じます。

本大会の統一論題は、当該分野で先導的な研究成果を重ねておられる青木章通教授（専修大学）に座長をお願いし、「デジタル時代における収益創造とマネジメント・コントロールの再構築」をテーマとして設定いたしました。急速に変容する実務の最前線と研究との接点を見出し、理論的深化へと結実させるかを中心課題として議論を展開いたします。

SaaSモデルやサブスクリプション型ビジネスにおける会計メトリクス、データドリブン経営の進展、さらにはRevOps（Revenue Operations）に象徴される組織横断的な収益管理の潮流により、従来の管理会計およびマネジメント・コントロール研究の枠組みは大きく変化しております。一方で、デジタル化が進むほど、組織文化や現場での実践といった定性的側面の重要性も再認識されています。デジタル時代の管理会計研究には、技術的な発展可能性と人間的・組織的側面の双方を視野に入れた多

面的アプローチが求められます。理論と実務を架橋し、持続的価値創造の新たな地平を切り拓く場とする所存です。

報告者として、千葉友範先生（EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社パートナー）、松岡孝介先生（山形大学）、足立洋先生（県立広島大学）にご登壇いただきます。また、ディスカッサントとして、『サブスク会計学』の著者である藤原大豊先生（三菱総合研究所主席研究員）にも議論に加わって頂く予定です。さらに、実務の最新動向に造詣の深い実務家に、統一論題の問題意識、背景を共有するための基調講演をお願いする予定です。

スタディ・グループ報告および産学共同研究グループ報告についても、例年どおり中間報告ならびに最終報告を予定しております。加えて、本大会では、実学としての意義をあらためて再確認する機会として、学会として新たに実務家セッションを実施いたします。崎章浩会長の企画構想が結実した本セッションは、研究と実務の接点を一層強化し、理論の深化と実践知の共有を同時に促す画期的な試みであります。現場の最前線で活躍する実務家との対話を通じて、研究課題の現実的意義を問い直すとともに、学術的知見の社会的還元を具体化する場となることを目指しております。

自由論題の募集につきましては、2026年3月を目途に会員各位へご案内し、詳細な大会プログラムは7月中旬を目途に公開する予定です。

大会準備委員会一同、万全の準備を進めてまいります。多くの会員の皆様のご参加を賜りますよう、お願い申し上げます。

日本管理会計学会2026年度年次全国大会スケジュール（予定）  
会場：成蹊大学吉祥寺キャンパス

※プログラム準備の都合上、詳細については変更・追加の可能性がございます。

**【大会1日目】**

**8月23日（日）午後**

常務理事会，理事会，各種委員会

**【大会2日目】**

**8月24日（月）9:00～17:00（受付）**

自由論題報告①，実務家セッション，会員総会，特別講演，統一論題（基調講演・統一論題報告・統一論題討論），  
会員懇親会

**【大会3日目】**

**8月25日（火）9:00～11:30（受付）**

自由論題報告②，スタディ・グループ中間報告・最終報告，産学共同研究グループ中間報告

## 学会業務日誌

2025年4月26(土)

▼第1回常務理事会開催(日本大学)

▼第1回理事会開催(日本大学)

- ◆ 2024年度の事業報告が承認されました。
- ◆ 2025年度の方針および事業計画(案)が承認されました。
- ◆ 選挙管理委員会の設置と選挙管理委員の選出が承認されました。
- ◆ 研究倫理綱領が承認されました。
- ◆ 会則の改正が承認されました。
- ◆ 産学共同研究グループ規程の改正が承認されました。
- ◆ スタディ・グループ規程の改正が承認されました。
- ◆ 学会賞規程の改正が承認されました。
- ◆ 「管理会計の日」のイベント実施が承認されました。
- ◆ GMAP(Global Management Accounting Principles)の翻訳・出版が承認されました。
- ◆ 入会13名(正会員11名・賛助会員2社), 復会1名(正会員1名), 退会8名(正会員7名・特別会員1名)が承認されました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況について報告がありました。
- ◆ 2025年度年次全国大会の準備状況について報告がありました。
- ◆ 京都管理会計研究会との共催について報告がありました。
- ◆ 2025年度第2回国際学会参加費の助成について報告がありました。
- ◆ 2025年度スタディ・グループの公募について報告がありました。
- ◆ 学会賞候補者の募集について報告がありました。
- ◆ フォーラム, リサーチセミナーの活動状況, 地方部会, 企業研究会・工場見学の活動状況について, 2025年度事業計画のなかで報告がありました。

2025年7月19(土)

▼第2回常務理事会開催(福岡大学)

- ◆ 2024年度の収支決算書(案)および監査報告が承認されました。
- ◆ 2025年度事業計画(案)が承認されました。
- ◆ 2025年度収支予算(案)が承認されました。
- ◆ 学会賞(特別賞・功績賞)について承認されました。
- ◆ 名誉会員の規定の改正が承認されました。
- ◆ 三選禁止規定の改正が承認されました。
- ◆ 入会7名(正会員3名・準会員4名), 会員種類変更5名(準会員から正会員4名・賛助会員(法人)から賛助会員(個人)1名), 退会6名(正会員5名・準会員1名)が承認されました。
- ◆ 地方部会費についての説明と学会賞の新設・名称変更について報告がありました。
- ◆ 2025年度年次全国大会の準備状況について報告がありました。
- ◆ 2026年度年次全国大会の開催校について報告がありました。
- ◆ 地方部会, 企業研究会の活動状況, フォーラム, リ

サーチセミナーの活動状況, 学会誌『管理会計学』の発行状況と今後の方向性について, 2025年度事業計画のなかで報告がありました。

2025年8月29(金)

▼第3回常務理事会開催(甲南大学)

▼第2回理事会開催(甲南大学)

- ◆ 2025年度会員総会次第が承認されました。
- ◆ 2024年度収支決算書(案)および監査報告書が承認されました。
- ◆ 2025年度方針および事業計画(案)が承認されました。
- ◆ 2025年度収支予算書(案)が承認されました。
- ◆ 学会賞(論文賞・文献賞)について承認されました。
- ◆ スタディ・グループの選考について承認されました。
- ◆ 学会賞の新設(「片岡賞」)について説明と質疑がなされました。審議の結果, 片岡賞の新設という方針については承認され, 条文の内容等については継続的に審議していくこととなりました。
- ◆ 入会2名(正会員2名), 退会11名(正会員5名・準会員6名)が承認されました。
- ◆ 2025年度年次全国大会の準備状況について報告がありました。
- ◆ 2026年度年次全国大会の開催校について報告がありました。
- ◆ 2026年度第1回国際会議参加経費の助成の公募開始について報告がありました。また, 崎会長より, 円安などの影響を受けて, 現状の金額では国際学会に参加できないことから, 廃止あるいは金額を上げる必要性について提示されました。
- ◆ 2025年度・2026年度産学共同研究グループについて報告がありました。
- ◆ 地方部会, 企業研究会の活動状況, フォーラム, リサーチセミナーの活動状況, 学会誌『管理会計学』の発行状況について, 2025年度事業計画のなかで報告がありました。

2025年11月29(土)

▼第4回常務理事会開催(東京国際大学)

- ◆ 「役員選任規程」等の改正が承認されました。
- ◆ 「片岡賞」に関する規定の改正が承認されました。
- ◆ 監事への旅費交通費補助について承認されました。
- ◆ スタディ・グループの会計報告について承認されました。
- ◆ 産学共同研究グループの会計報告について承認されました。
- ◆ 入会3名(正会員2名・準会員1名), 退会4名(正会員3名・賛助会員1社)が承認されました。
- ◆ 地方部会, 企業研究会の活動状況について報告がありました。
- ◆ フォーラム, リサーチセミナーの活動状況について報告がありました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況と今後の方向性について報告がありました。

## 会員数の推移

- 第1回常務理事会（2025.4.26）：入会13名（正会員11名・賛助会員2社），復会1名（正会員1名），退会8名（正会員7名・特別会員1名），会員現員数は682会員（正会員:586名，準会員:72名，賛助会員:14社，特別会員:10名）
- 第2回常務理事会（2025.7.19）：入会7名（正会員3名・準会員4名），会員種類変更5名（準会員から正会員4名・賛助会員（法人）から賛助会員（個人）1名），退会6名（正会員5名・準会員1名），会員現員数は683会員（正会員:588名，準会員:71名，賛助会員:法人13社・個人1名，特別会員:10名）
- 第3回常務理事会（2025.8.29）：入会2名（正会員2名），退会11名（正会員5名・準会員6名），会員現員数は674会員（正会員:585名，準会員:65名，賛助会員:法人13社・個人1名，特別会員:10名）
- 第4回常務理事会（2025.11.29）：入会3名（正会員2名・準会員1名），退会4名（正会員3名・賛助会員1社），会員現員数は673会員（正会員:584名，準会員:66名，賛助会員:法人12社・個人1名，特別会員:10名）

## 事務局からのお知らせ

○フォーラムやリサーチセミナーの案内等，会員宛の連絡にeメールを活用しています。メールアドレスを未登録の方は，学会ホームページよりご変更ください。また，すでに登録されている方で，案内等が届かない，あるいは，メールアドレスに変更があった場合には，速やかに学会事務局までご連絡ください。

日本管理会計学会広報 責任者：内山 哲彦

メンバー：奥 倫陽，原 慎之介

発行機関：日本管理会計学会

《本部事務局》 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター（株）国際文献社内

日本管理会計学会 事務局

【ホームページURL】 <https://sitejama.jp/>

【E-mail】 [jama-post@bunken.co.jp](mailto:jama-post@bunken.co.jp)

【TEL】 03-6824-9371 【FAX】 03-5227-8631

【Facebook】 <https://www.facebook.com/sitejama/>